

亀 兔 賽 跑（うさぎとかめの競走）#

むかしむかし、一匹のうさぎが、のろのろと歩いているかめを見て、わざと嘲笑って、さらに挑発して言いました。「俺たち、競走してみないか？」かめは、ちょっと考えてから、うなずいて応ずることにしました。

次の日の朝早く、うさぎとかめの競走が始まりました。スタートするや否や、うさぎは矢のように飛び出していき、早くも、かめをはるか後方に引き離し、影さえも見えなくなりました。うさぎは、心の中でこう思いました。「かめの奴、私と競走するなんて本当に冗談じゃない。どうせあいつは、あんなにのろまなんだから、俺が一眠りして覚めてから走っても、あいつには勝てるさ」そうしてうさぎは、大きな木の下に座り込み、気持ちよく眠ってしまいました。

かめは、ゆっくりであったけれども、目的地へ向かって懸命に、ひと時も休まず這い続けました。一步、また一步、だんだんとゴールへ近づいてきました。

うさぎが、ふと目を覚ますと、もう夕暮れになっていました。かめとの競争のことを、はっと思い出し急いでゴールへ向かって走りました。しかしもう遅かった。いくら一生懸命に走っても、すでにゴールしてしまったかめを追い越すことはできませんでした。

うさぎは、とても恥ずかしく後悔して、それから二度と、他人をあざ笑うようなことは致しませんでした。

この物語は、私たちにこんなことを教えてくれます。傲りは失敗のもと、あきらめずに努力すれば必ず成功する。